

「すべて良い木は良い実を結ぶ」(17節)。主イエス・キリストの言葉がこの日、大勢の人々の心に届きました。人々は、わくわくしながら主イエスの言葉を聞いたはずです。神の国について、神を信じて生きる幸いについて、このように話した人は今まで誰もいなかったのです。

7章の後半だけを切り取って読むと、主イエスがとても難しい課題を私たちに突きつけたように聞こえます。今日の所も〈良い木になって良い実を結べ〉と誤って読むと、私たちは心が重くなります。神の目に美しいと言われるような良い木になって、神が満足して下さるような良い実を結ばねばならないのだとしたら、この言葉はそのまま私たちに絶望だけを与えます。私たちの誰一人として、神の目に適うような良い木になったり、神が喜んで受け取って下さるような良い実を結ぶことなどできないのです。

聖書は、神が私たちに何をして下さったか、何をして下さって、これから何をして下さるかを伝える書物です。私たちが神に対して何をしたら良いかなど書いてありません。いつでも、主語は《神》です。今日の場合でも、〈良い実を結ぶ良い木〉という言葉で、私たちは主イエス・キリストを思い起こして良いのです。主イエスは、御自分のことを繰り返し譬えてお語りになりました。ヨハネによる福音書を見ると、主イエスは「わたしはまことのぶどうの木」と言われ、「あなたがたはその枝である」と宣言しておられます(ヨハネによる福音書 第15章1節、5節)。そして〈父なる神、農夫である神は、あなたをわたしに接ぎ木してつなげて、わたしの枝として下さる農夫だ。あなたがわたしにつながれて命を得て、良い実を結ぶように手入れをして下さる農夫だ。だから、わたしの枝としてつながって、永遠の命を生きて、実を結んだらよい。〉と主はそう言われるのです。

キリスト教会が生まれて間もない頃に、教会の中に〈偽預言者〉、〈偽教師〉、或いは〈不法を行う者〉が現れました。そのような人々との戦いと混乱の中で、この聖書の言葉は読まれました。あの日、イエス・キリストが丘の上に立って、あらかじめ教会の中に起こる様々な戦いや嵐を御存知で、このように語られたと、初代教会の人々はこの言葉を聞き、その言葉の中にイエス・キリストの力強い宣言と約束を聞き取りました。〈本当の福音、聖書の言葉、神の言葉だけが語られているはずの教会で、様々な人間の思いが、私たちの罪から溢れ出る言葉が飛び交う。しかし、あなたがたはそれを見分ける。本当のことと、そうでないことを峻別して、神

の言葉を正しく聞き取ることができる。〉これは、主イエス・キリストの約束です。

主イエスが地上に来られ、新しい《時》が来て、神と私たちの関係が変わったのです。神を信じ、イエス・キリストを信頼して歩き始めると、私たちはキリストにつながれた〈良い実を結ぶ枝〉として生きようになります。「すべて良い木は良い実を結ぶ」というのは、私たちに向けられた救いの約束の言葉です。決して良い実など結び得ない私たちが、神によって、イエス・キリストに接ぎ木をされるようにしてつながれる。イエス・キリストの命が私たちの身体の中を駆け巡るようにして私たちは生き始めます。

神は休むことなく熱心に働き続ける農夫です。私たちひとりひとりを選び取って下さった神が、私たちの枝の様子を見て、少し萎れていたら栄養を加え、枯れそうであれば水を与え、親木からちぎれそうになったらそれを強く結びつけて、私たちが豊かな実を結ぶようにして下さい。私たちの努力や力は、その神の愛に促されて発揮されていきます。それは救いの条件として求められているのではなく、既にキリストに結びつけられた者が喜びをもってお応えをしていく時に現れてくるものです。

私が今置かれている所で、神のものとして生かされている。私の生涯、一瞬一瞬の時間は神のものだ。その事実を思い起こしましょう。そこで改めて、〈神よ、この私の全生涯をあなたの御心に適うように用いて下さい。〉と祈り始めましょう。その献身の祈りを神は喜んで聞き取り、応えて、溢れる恵みと祝福をもって、神の御心を私たちの人生の中で実現して下さい。

イエス・キリストを信じる者は、やがて終わりの日、神の前に立ち、発見します。私たち自身が神を喜ばせ、天上に溢れる喜びを生み出した「良い実」であることを。神は、私たち自身を喜んで受け取るために主イエス・キリストを地上に送り、その命を与え尽くしてくださいました。だから「すべて良い木は良い実を結ぶ」という言葉は、私たちを永遠の命に招く約束の言葉です。誰でも、御子イエス・キリストを信じる者は、この言葉の中に自分を発見します。〈あなたはわたしの目に美しい良い木だ。良い実そのものだ。終わりの日、わたしの前に立って、わたしを喜ばせる存在だ。〉主イエス・キリストを信じて、この約束の言葉が自分自身に向けられた宣言であることを受け止め、神を誉め讃えて生きたいと願います。

(記 説教要約奉仕者)